

美しいラオスの村を守るために

「青年海外協力隊」などの事業で知られ、開発途上国の支援を行う日本政府の国際協力機構・JICA(ジャイカ)。政府開発援助ODAの実施機関です。私はJICA中部のオフィシャル・サポーターに2年前に就任し、JICAを広く分かりやすく皆さんにお伝えするお手伝いをさせていただいています。

この夏、JICAの視察でラオスへ行ってきました。ラオスはタイやベトナムなどに囲まれたアジアの小国です。地理的条件と過去の長期内戦の影響で経済発展は遅れ、日本からも経済・技術協力をしています。

ラオスは、想像をはるかに超える美しく自然豊かな国でした。自然とともに暮らす少数民族が伝統的で穏やかな暮らしを守り続けている一方、交通網も発展し、隣国からの経済参入、森林伐採による土地開発など新たな問題が押し寄せています。経済発展は大切ですが、地球全体の環境や持続可能な国のあり方を思うと、大事なことが失われていく恐怖も感じました。目先のお金に左右されず、慣れ親しんだ暮らしや脈々と受け継がれてきた伝統をむやみに壊

さず、素朴に暮らす農村部の農民たちにとっての幸せをサポートするために、JICAから協力隊員を現地へ派遣し、ラオスの人々と同じ環境での生活を通し、相互理解を図りながら、自助努力を促進させる形で協力活動を展開しています。

今回、私が訪れた村落では「一村一品プロジェクト」がJICAによって展開されていました。その村で採れる天然素材を使って伝承技術を生かし、農閑期に生産できる特産品を生み出して販売し、村の収入とするもの。生産品が安定することで、外部からの土地買収にも屈することなく豊かな土地を守ることができ、生き抜く



地元の天然林で採れる藤で作る特産品。作るのは手先がとて器用な村の女性たち。ラオス南部でのJICA「一村一品」プロジェクト

力となることと思います。高床式住居の軒下で、はたを織っている村、ラタンという植物繊維でかごを編んでいる村、森で天然蜂蜜を採っている村、アロエ栽培でジュースを開発している村など、さまざまな特産品誕生のサポートをJICAのメンバーが村民に寄り添った丁寧な活動で成功へと導いていました。

ある村へ訪れた帰りのこと。私の旅の安全や人生の幸せを祈って村人たちがみんなが綿のひもを私の腕に縛ってくれました。縛る人と縛られる人のひじにみんながそつと手を添え、村人みんながつながって一つになって私の幸せを願ってくれたのです。その温かさや力強さに、涙があふれました。

「遠い日本の皆さんが私たちのことを真剣に思ってくれて、丁寧に根気よく助けてくれる。このサポートがなければ今の私たちはないでしょう。心から感謝しています。これからも一緒に村の発展を応援してください」と村長さん。世界中でJICAの隊員さん一人一人が村民に寄り添い丁寧に心を通わせ尽力していることに心から感謝、感動でした。この思いを大切に、私はJICAオフィシャル・サポーターとして日本の皆さんに、海外での日

村に客人が訪れた時の儀式。村人たち全員で旅人である私の幸せを祈ってくれています。感動です



本の国際協力の現状を正しくお伝えし、これらの村々の小規模生産者の産品をしっかりと日本へつなげるフェアトレードを頑張らなくてはと心に誓いました。困っている人々の問題は決して他人ごとでなく「自分ごと」。私たちの行動で、解決の道を探していきましょう。

プロフィール.....
はらださとみ
(タレント/エシカル・コーディネーター)
フェアトレード&エシカル商品の輸入販売「エシカル・ベネロープ」代表。国際協力機構JICA中部なごや地球ひろばオフィシャル・サポーター、親子向けの絵本読み聞かせ「ルブブ」主宰など幅広く活躍中！(勸地球環境財団エシカルJAPAN中部地区代表。エシカル・ファッション&フェアトレードのセレクトショップ「エシカル・ベネロープ」をテレビ塔1階に続きナディアパーク4階にもオープン。
<http://satomiharada.com>

